

認知症の症状とリハビリテーション

中央リハビリテーション部 部長

かどた たかし
門田 隆

認知症は、記憶障害、判断力低下、時間や場所が分からないといった見当識障害や、目的の手順や段取りが出来なくなる遂行機能障害や、失語や失認などの高次脳機能障害に似た症状が出現したり、妄想、抑うつ気分、不穏、睡眠障害、徘徊など様々な精神疾患に類似した症状が出たり消えたりします。

リハビリテーション技師は認知症患者さんに、心理面の安定、応用動作能力や社会的機能の向上、日常生活の向上を図ります。

病院や施設で施行されている治療や予防の一つに回想法があります。「回想法」とは、長寿科学振興財団によると「自分の過去のことを話すことで精神を安定させ、認知機能の改善も期待できる心理療法のこと」と定義されています。

方法と効果は、昔の写真や映像、昔よく聴いた音楽や歌、読んでいた本や新聞、使い込んだ生活用品などを使用し、2人もしくはグループでの会話で、自分の思いを伝えるため、言葉や素振りを駆使します。この作業は記憶を蓄積する脳内の海馬、視覚野、言語野と多くの部位を働かせるので、脳が活性化され認知症の予防改善が期待できます。また、患者さんは元気だった過去を再認識し、認めてもらうことで自信を取り戻し、情緒が安定します。その他にも、バリデーションセラピー^{※1}、モンテッソーリケア^{※2}、現実見当識練習等の治療手技があります。



～用語解説～

※1 バリデーションセラピー

バリデーションセラピーとは、言葉よりも感情表出を促すことを重視し、認知症患者さんに対して、悲しみ・怒り・怖れ・不安といった負の感情を表出させ、受け手側が共感することで、患者さんが自身の人生の意味や存在価値を確認できるように手助けするという方法です。患者さんの多くが抱えている喪失感を埋めることができ、ストレスや不安の軽減、行動・心理症状の緩和、自尊心の回復、途絶していた他者との交流などと様々な問題解決につながるとされています。

※2 モンテッソーリケア

モンテッソーリケアとは、認知症患者さん自身が活動を選択出来るように理解しやすい言葉や身振り、道具の配置等の生活空間の工夫、役割分担の明確化することにより自分らしく生活できるように支援するケアです。様々な生活場面で取り入れることにより日常生活動作の向上や認知症の症状に隠れている自分らしさを再発見し、自信を持つことができるようになります。ケアをとおして、患者さんだけでなく、介護者やご家族の方も成功と達成感を共有することができます。



富山ろうさい病院では、毎月、魚津市ケーブルテレビ「NICE-TV」による行政番組「まちかど魚津」に、各診療科の医師が出演し、最新の医療情報を提供しています。

放送日程：11月1日～11月15日

放送時間：①午前7時 ②午後1時 ③午後5時 ④午後10時

「突然の腹痛！いったい何が原因なの？」 第二外科部長 庄司 泰弘



過去の放送はこちらのQRコードからも確認できます。



NICE-TV まちかど魚津

富山労災病院からのお知らせ



【過去の放送はこちらから】

URL www.toyamah.johas.go.jp/movie/index.html